

奈良・奈良町遺跡

(平城京跡左京四条六坊十四坪)

- 1 所在地 奈良市阿字万字町
- 2 調査期間 一九九九年(平11)五月～六月
- 3 発掘機関 奈良市教育委員会
- 4 調査担当者 松浦五輪美・細川富貴子
- 5 遺跡の種類 都城跡、中・近世都市
- 6 遺跡の年代 八世紀～一八世紀
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



(奈良)

遺跡は平城京の東端にあたるが、平安時代以前の遺構はほとんど遺存しておらず、中世以降奈良町として発展した時期の遺構が多い。地形が西へ下る緩やかな斜面であるため、土地が削平や盛土によって改変されており、基本的に南北に長い宅地が形成されている。検出した遺構は、溝・土坑・井戸などで、

明確な建物跡は確認できなかった。溝は宅地を区画するためのもので、平安時代から室町時代に到るまではほぼ同様の宅地割りが踏襲されているようである。

木簡が出土した井戸は、一七世紀前半のものと考えられ、南北約二m東西約一・五mの楕円形で深さ二・六m以上の掘形をもつ。枳材は抜き取られたものと思われる。埋土からは土器の他、下駄・漆碗・皇宋通宝(北宋、一〇三八年頃)などが出土している。

8 木簡の釈文・内容

(1) 「く出雲村弥四郎」

128×20×3 032

上端は折ったまま整形していない。「出雲村」は奈良県桜井市に江戸時代から一八八九年(明治二二)まで存在しており、そこから送られた物品に付けられていた荷札木簡であろう。(松浦五輪美)

